

# 釧路川自然再生

釧路川の下流に位置し貴重な自然環境を有する釧路湿原は、近年の湿原周辺の経済活動に伴いその面積が減少し、植生状況も湿潤した環境で育成するヨシ・スゲ群落から乾燥した環境でも生育するハンノキ林に変化してきている。ハンノキ林の拡大は、周辺の土地開発や流入河川の直線化に伴う湿原域への土砂の流入の増大、地下水位の低下等に起因するとされている。釧路湿原の自然環境の劣化・悪化は、野生動物のみならず、人間にとっても好ましい状況ではなく、本来の湿原環境の保全・回復のための対策が必要な状況にある。北海道開発局は、河川法の改正を踏まえ釧路湿原の保全について、関係機関と連携して様々な取り組みをはじめている。河川管理者として湿原保全に積極的に取り組むのは、全国でも初めての事例である。

## ◆ 再生のポイント

- 蛇行する河川の復元
- 湿原植生の制御試験
- 土砂流入対策

## ◆ 釧路川概要

釧路川は、北海道の東部、阿寒国立公園屈斜路湖に源を發し釧路原野の大湿原地帯を大きく蛇行しながらゆっくり流れ太平洋に注ぐ一級河川である。流域面積 2,510km<sup>2</sup>、延長 154km、流域内人口は約 18 万人、想定氾濫区域内人口は約 7.1 万人である。サケ・マスの遡上河川であり、サケの人工ふ化事業により資源の維持、増殖上重要な河川である。

釧路川の下流部に位置する釧路湿原は、広さが約 20,000 ha で我が国最大の湿原であり、そのうち約 5500ha が天然記念物および、ラムサール条約湿地として登録されている。

都市部に近い湿原でもあり、洪水調節機能や湿原特有の景観資源、観光資源としての機能を有しているが、この 50 年間で 20%もの湿原面積が減少し、ハンノキ林が急激な増加を続けている。

国土交通省は、環境省、北海道庁の参加を得て、2001 年 3 月に釧路川河川環境保全に関する検討委員会から提言をうけて水辺林・土砂調整池による土砂流入の防止、植林などによる保水・土砂流入防止機能の向上、湿原の再生、湿原植生の制御、蛇行する河川への復元など多岐にわたる具体的施策の実施を検討中である。



## ◆ 再生のために実施した事業

### 【蛇行する河川の復元】

釧路川の茅沼地区において、蛇行していた昔の川を取り戻し、自然の川本来の生物生息環境を復元することを目的とし、事業化に向けた各種調査・準備工事を実施中。

### 【湿原植生の制御試験】

ハンノキ林の急激な増加に対し、湿原植生を制御するため、水を貯める試験を実施。釧路遊水地南西部の雪裡樋門地区の地下水位を上げ、ハンノキ林への影響などの調査を行う。

### 【土砂流入対策】

釧路湿原への土砂流入を防止するため、土砂調整地の整備や河道の安定化等、久著呂川における対策について、調査・検討が進められている。

出典：北海道開発局 HP (<http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/kasen/sizensai/>)

「川の自然再生」セミナーテキスト 財団法人リバーフロント整備センター